

■ 履修が望ましい科目〔領域別〕

神学部では、神学に関わるさまざまな分野の勉強ができるようにカリキュラムを設定しているが、その仕上げとなるのは「特殊研究演習A・B」（卒業論文を含む）である。以下に挙げるものは、神学に関わる各分野の「特殊研究演習A・B」を履修するためにどのような科目を勉強すればよいのかの道標となるものである。ただし、このとおりに履修しなければならないわけではなく、各分野の特殊研究演習の担当者が、習得した方がよいと考えたものを提示している。参考にして、計画的な履修を心がけること。なお専門基礎科目の必修科目は履修モデルには記載していないが、それはいずれの分野を勉強する際にも最低限必要とされる知識を習得するという理由による。

なおキリスト教伝道者コース（キリスト教神学・伝道者コース）の学生は、第3学年において実践的諸科目に数えられる「牧会学概論」「礼拝学概論」「説教学概論」「教会の現在A」、ならびに第4学年において「教会の現在B」が専門専攻科目の必修科目となっているので、よく理解しておくこと。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">旧約聖書学</p>	<p>旧約聖書学は、旧約聖書を、ユダヤ教やキリスト教の聖典としてだけでなく、より幅広く、この世界における一時的な存在である人間存在の持つ根元的問題性を、「永遠なる者」との対比の中に置いて問う書物として読み解く。旧約聖書においては神話的表象や文学的装置を用いて語られる人間理解を現代に再解釈するために、聖書学の諸方法論をはじめ、文化精神医学や心理学、文芸批評や物語論等の方法を用いる。</p> <p>第2学年春学期 旧約聖書入門A、旧約聖書の思想A 同 秋学期 聖書ヒブル語Ⅰ甲・乙、旧約聖書の思想B</p> <p>第3学年春学期 聖書ヒブル語Ⅱ甲・乙、旧約聖書の解釈A、旧約聖書学演習 同 秋学期 旧約聖書の解釈B、旧約聖書学演習</p> <p>第4学年春学期 特殊研究演習A 同 秋学期 特殊研究演習B</p> <p>【備考】上記の履修モデルの他に、次のような知識を得ていることが望ましい。 *旧約諸文書が生み出された背景についての理解を深めるために、古代オリエントの歴史や宗教等に関する知識 *旧約聖書と共にキリスト教「正典」を形成する新約聖書に関する基礎的な知識、ことに新約聖書における旧約解釈についての理解</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">新約聖書学</p>	<p>新約聖書学は、27巻からなる新約聖書のテキストに関して、その歴史的・文化的背景を十分に考慮しながら、人文科学や社会科学等の解釈手法をも取り入れて理解を深める学問である。そのテキスト理解は、執筆当時の著者と読者にとっての意味を読みとると同時に、テキストが現代社会の諸問題に対して与える示唆をも探究する試みである。</p> <p>第1学年秋学期 新約聖書入門A</p> <p>第2学年春学期 新約聖書の思想A、新約聖書ギリシャ語Ⅰ甲・乙 同 秋学期 新約聖書の思想B、新約聖書ギリシャ語Ⅱ甲・乙</p> <p>第3学年春学期 新約聖書の解釈A、新約聖書学演習 同 秋学期 新約聖書の解釈B、新約聖書学演習、聖書関係諸語B</p> <p>第4学年春学期 特殊研究演習A 同 秋学期 特殊研究演習B</p> <p>【備考】新約聖書テキストを深く理解するために、第二神殿期ユダヤ教文書、新約聖書外典、使徒教父文書にも親しんでいることが望ましい。</p>

歴史神学	<p>歴史神学は、2世紀以降のキリスト教の歴史に関わる問題を広く考察するものであり、そこには教父学や中世キリスト教神学、宗教改革の神学や歴史はもちろん、アジアと日本のキリスト教史なども含まれる。歴史上の人物、思想、出来事、文化を学ぶことを通して現代をも考える力を身につける。</p> <p>第1学年春学期 ラテン語Ⅰ 同 秋学期 ラテン語Ⅱ</p> <p>第2学年春学期 キリスト教思想史A、日本キリスト教史A 同 秋学期 キリスト教思想史B、日本キリスト教史B</p> <p>第3学年春学期 キリスト教史学演習 同 秋学期 キリスト教史学演習</p> <p>第4学年春学期 特殊研究演習A 同 秋学期 特殊研究演習B</p> <p>【備考】思想史に関わるので西洋哲学史の知識も習得することが望ましい。また古代の教父を研究するためにはギリシア語の知識が必要となる。なおラテン語は第2学年での履修でも十分よい。またアジアや日本のキリスト教史を専攻する場合は「日本宗教学A・B」「キリスト教とアジアA・B」などを履修することが望ましい。</p>
キリスト教文化	<p>キリスト教は歴史のなかで絵画、建築など豊かなキリスト教芸術を生み出してきた。教会、社会、個人の信条、信仰との関わりなどを通して様々な様式や作品を考察することで、ユニークなキリスト教理解が得られるかもしれない。安易に考えず、基礎からしっかり勉強すること。</p> <p>第1学年春学期 ラテン語Ⅰ 同 秋学期 ラテン語Ⅱ</p> <p>第2学年春学期 ヨーロッパ文化史とキリスト教A、キリスト教思想史A 同 秋学期 ヨーロッパ文化史とキリスト教B、キリスト教思想史B</p> <p>第3学年春学期 キリスト教文化演習、キリスト教と美術A 同 秋学期 キリスト教文化演習、キリスト教と美術B</p> <p>第4学年春学期 特殊研究演習A 同 秋学期 特殊研究演習B</p> <p>【備考】ラテン語の履修は第2学年でも可。</p>
組織神学・キリスト教思想	<p>組織神学・キリスト教思想は、聖書に啓示されるキリスト教の真理について考察する神学の領域であり、組織神学は、その真理内容を信条・信仰告白に拠りながら体系的に叙述し教会の宣教に奉仕する。また、宗教哲学は、哲学的思惟によりその真理内容を批判的に吟味し宗教の本質を探究する。</p> <p>第2学年秋学期 (組織)キリスト教教理の体系A／(思想)キリスト教と思想概論A</p> <p>第3学年春学期 (組織)現代神学A、現代神学の諸問題A、組織神学演習／(思想)哲学とキリスト教A、現代思想とキリスト教A、キリスト教と思想演習 同 秋学期 (組織)現代神学B、現代神学の諸問題B、組織神学演習／(思想)哲学とキリスト教B、現代思想とキリスト教B、キリスト教と思想演習</p> <p>第4学年春学期 特殊研究演習A 同 秋学期 特殊研究演習B</p> <p>【備考】両領域とも、ドイツ語を履修していることが望ましい。また、キリスト教思想領域は「西洋哲学史A・B」を履修することが望ましい。組織神学・キリスト教思想の両領域は、相互に密接な関係にあるので、それぞれをバランス良く履修することが望まれる。</p>

実践神学

実践神学は、教会や病院、学校を始めとする様々な宣教の現場における課題に神学的にアプローチすると共に、実践的なスキルも高める事を目的とする。さらにキリスト教と現代社会との様々な接点を分析することにおいて、現代におけるキリスト教と社会との関わりを考察する。

第2学年秋学期 キリスト教の実践的課題A

第3学年春学期 牧会カウンセリング、牧会学概論、

同 秋学期 説教学概論、礼拝学概論

第4学年春学期 特殊研究演習A

同 秋学期 特殊研究演習B

【備考】牧会カウンセリング、礼拝学、説教学、宣教学、キリスト教教育学などを含み、他の選択科目を加えることでこれらの分野を専攻することができる。また、キリスト教と現代社会との関わりについては、上記以外の科目の選択も考えられる。